# 令和７年度
# 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
# 成果報告書
# ①（基礎データ・公演事業の実績値等）

| 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業 | |
|---|---|
| 団体名 | 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター |
| 施設名 | 宮古市民文化会館 |
| 内定額 | 5,793　（千円） |

# （1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

| 事業番号 | 事　　業　　名 | 実施日程 | 実施会場 |
|---|---|---|---|
| 普-01 | こども舞台芸術体験事業　～観る、学ぶ、創る、その全部を～ | | |
| 普-02 | 三陸AIR/AIR～文化DNAを繋ぐアーティスト・イン・レジデンス～ | | |
| 普-03 | コンサートキャラバン～音楽が結ぶ、人と街～ | | |
| 普-04 | 芸能Re;Connect～文化コミュニティ再生とリ・ブランディング～ | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

## （2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1．事業本数】

| 項　　目 | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---|---|---|---|---|
| 年間事業本数（※1） | 主催事業 | 22 | 21 | 20 |
| | 公演事業 | 14 | 12 | 11 |
| | （内、本助成対象事業本数） | 0 | 10 | 10 |
| | 人材養成事業 | 0 | 0 | 0 |
| | （内、本助成対象事業本数） | 0 | 0 | 0 |
| | 普及啓発事業 | 7 | 6 | 5 |
| | （内、本助成対象事業本数） | 0 | 6 | 5 |
| | 共生社会事業 | | | |
| | （内、本助成対象事業本数） | | | |
| | その他　内容：　レジデンス(稽古リサーチ)、次年度事業準備など | 1 | 3 | 4 |

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2．貸館日数】

| 項　　目 | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---|---|---|---|---|
| 貸館日数 | ホールごとの貸館日数 | 275 | 269 | 213 |
| | ホール名：大ホール　　座席数：1012 | 130 | 108 | 81 |
| | ホール名：中ホール　　座席数：362 | 145 | 161 | 132 |
| | ホール名：　　座席数： | | | |

【3．施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

| 項　目 | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---|---|---|---|---|
| 施設利用者数（※2） | 主催事業入場者・参加者数 | 13,117 | 13,971 | 8,829 |
| | 公演事業 | 12,386 | 12,397 | 7,656 |
| | 人材養成事業 | 0 | 0 | 0 |
| | 普及啓発事業 | 544 | 1,543 | 986 |
| | 共生社会事業 | | | |
| | その他　内容： | 187 | 31 | 187 |
| | 貸館事業入場者・参加者数 | 23,929 | 14,730 | 20,164 |
| | その他　内容： | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 37,046 | 28,701 | 28,993 |
| 開館日数 | | 309 | 306 | 309 |
| 施設の利用可能日数　（＝365－(保守点検日数+休館日数)） | | 309 | 306 | 309 |
| 施設の利用日数 | | 264 | 258 | 234 |
| 施設の利用率(%)　（＝利用日数/利用可能日数） | | 85.4% | 84.3% | 75.7% |

| 備考 | |
|---|---|

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

## 【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

| 事業種別 | | 事業本数 | 公演回数 | 入場者・参加者数 | 事業本数内訳 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 演劇 | 音楽 | 舞踊 | 伝統芸能 | 演芸 | 総合（※3） | その他 |
| 令和5年度 | 主催公演（※1） | 13 | 18 | 12,386 | 5 | 2 | 1 | 3 | 0 | 1 | 1 |
| | 共催・提携公演（※2） | 4 | 5 | 2,417 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 貸館公演 | 18 | 18 | 7,382 | 1 | 11 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| | 計 | 35 | 41 | 22,185 | | | | | | | |
| 令和6年度 | 主催公演（※1） | 12 | 15 | 12,397 | 3 | 3 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 |
| | 共催・提携公演（※2） | 2 | 3 | 835 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 貸館公演 | 16 | 20 | 4,600 | 1 | 12 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| | 計 | 30 | 38 | 17,832 | | | | | | | |
| 令和7年度 | 主催公演（※1） | 11 | 14 | 7,565 | 3 | 2 | 1 | 4 | 0 | 1 | 0 |
| | 共催・提携公演（※2） | 2 | 5 | 1,321 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 貸館公演 | 17 | 21 | 6,177 | 3 | 10 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| | 計 | 30 | 40 | 15,063 | | | | | | | |

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

## （3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

| 事業番号 | 事業名 | | 入場者数 | 入場者率 | 評価指標 | 目標（値） | 実績（値） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |

# 令和７年度

# 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

# 成果報告書

# ②（評価）

| 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業 | |
|---|---|
| 団体名 | 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター |
| 施設名 | 宮古市民文化会館 |
| 内定額 | 5,793　（千円） |

## （1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

| 事業番号 | 事業名 | 自己評価 |
|---|---|---|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

※行が足りない場合は適宜追加してください。

## （2）自己評価

## 評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | ・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。<br>・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。<br>・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。<br>・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 | |
| | ・自由設定の観点（任意）（※2） | |

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| | 評価指標（※3） | 目標（値）（※4） | 実績（値） |
|---|---|---|---|
| 公演事業 | | | |
| 人材養成事業 | | | |
| 普及啓発事業 | ①事業評価：来場者等の満足度調査<br>②事業効果：来場者等の文化芸術の関心度変化<br>③波及効果：来場者等の地域・劇場への関心度の変化<br>④レジデントアーティスト評価：地域住民との交流人数・満足度 | ①　満足度 70%以上<br>②文化芸術の関心について 5 段階評価を行い「関心が高まった」と答える割合を 40%以上<br>③地域・劇場へ関心について 5 段階評価を行い「関心が高まった」と答える割合が 40%以上<br>④地域交流人数 2000 人以上、満足度を 70%以上 | ①満足 97.9%<br>②79.4%が関心が高まったと回答<br>③80.7%が関心が高まったと回答<br>④地域交流人数 2,936 人、うち約 700 人の満足度 98.6% |
| 共生社会事業 | | | |

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

| 公演事業 | |
|---|---|
| 自己評価 | |

| 人材養成事業 | |
|---|---|
| 自己評価 | |

| 普及啓発事業 | |
|---|---|
| 自己評価 | ① 来場者等の満足度については、97.9%と目標 70%以上を大幅に上回る結果となった。事業全体を通じて来場者から高い評価を得ており、企画・運営の質が十分に担保されていたと評価できる。<br>② 文化芸術の関心度変化については、79.4%が「関心が高まった」と回答し、目標 60%以上を上回った。事業への参加・鑑賞を通じて、来場者の文化芸術への関心を効果的に高めることができたといえる。<br>③ 地域・劇場への関心度変化については、80.7%が「関心が高まった」と回答し、目標 60%以上を達成した。文化芸術事業の実施が、地域や劇場そのものへの愛着・関心の醸成にも寄与していることが確認された。<br>④ レジデントアーティストによる地域住民との交流については、交流人数が 2,936 人と目標 2,000 人以上を大きく上回った。満足度についても、回答者約 700 人のうち 98.6%が満足と回答し、目標 70%以上を大幅に超える結果となった。アーティストの滞在を通じた地域住民との深い交流が実現し、地域に根ざした創造活動の場としての機能を十分に果たすことができた。<br><br>以上のとおり、創造性・企画性に関する全ての評価指標において目標を達成し、特に満足度および地域交流の面で顕著な成果が得られた。来場者の文化芸術や地域・劇場への関心が広く高まっており、本事業が地域の文化的基盤の強化に貢献していると評価できる。 |

| 共生社会事業 | |
|---|---|
| 自己評価 | |

## （２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

# 評価項目②：国際性（任意）

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | ・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。<br>・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。<br>・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 | |
| | ・自由設定の観点（任意）（※２） | |

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| 評価指標（※３） | 目標（値）（※４） | 実績（値） |
|---|---|---|
| ①三陸国際芸術祭と連携、芸能祭事等を多言語で紹介 | ①多言語ページの使用：年間アクセスの 10% | ①　海外からの年間アクセスの 8.58% |

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

| | |
|---|---|
| 自己評価 | 本館で行う芸能祭等を多言語で紹介できるよう Web サイトを更新したほか、郷土芸能祭では団体紹介の翻訳・配布を行うとともに、三陸国際芸術祭を通じて、海外への情報発信を行った。なお、Web サイトの更新にあたっては使用回数のカウントが仕様上不可能であったため、Google アナリティクスによる海外からのアクセス数を実績として記載する。<br>目標値には届かなかったが、宮古市は近年、クルーズ船の寄港地となっていることから、寄港のタイミングに合わせて各国から本館 Web サイトへのアクセス数が増加していることが確認された。今後は市の担当課と連携し寄港のタイミングに合わせ、受け入れ環境の整備を進めていきたい。 |

## （2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

## 評価項目③：地域文化拠点機能

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | ・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。<br>・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。<br>・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 | |
| | ・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2） | |
| | ・自由設定の観点（任意）（※3） | |

（※2）・（※3）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| 評価指標（※4） | 目標（値）（※5） | 実績（値） |
|---|---|---|
| 地域連携団体数（教育、福祉、観光、国際交流等） | 教育分野：30（市内：幼小中高 28 校、近隣市町村：小中：2 校）<br>そのほか：4 団体(観光 1、交通 1、NPO1、福祉 1) | 教育分野：32(市内：幼少中高 31 短大 1)<br>そのほか：10(観光 3、交通 1、福祉 2、地域施設 4) |
| 市内過疎地域・被災地行きや圏域(劇場がない市町村等)での事業数 | 市内過疎地域アウトリーチ：15 件<br>圏域市町村でのアウトリーチ：5 件 | 市内過疎地域アウトリーチ：4 件<br>圏域市町村でのアウトリーチ：7 件 |
| 被災地の市民団体活性化：市民文化団体の参画数、参加者数 | 市民文化団体 17 団体(芸術 12、芸能 5)<br>合計参加者 600 人 | 市民文化団体 17 団体(芸術 12、芸能 5)<br>合計参加者：515 人 |
| 実演芸術を通じた市民の通年の文化コミュニティ活動（団体の設置）数及び参加人数 | 通年活動市民コミュニティ 3 団体(市民劇団 1 団体、ジュニア 2 団体)<br>合計参加者 50 人 | 通年活動市民コミュニティ 3 団体(市民劇団 1 団体、ジュニア 2 団体)<br>合計参加者人 53 人 |
| 全てのこどもへの劇場での鑑賞体験提供とその満足度 | 鑑賞：3000 人(市内全児童生徒)、その満足度 70%以上 | 鑑賞：2745 人(市内全児童生徒※中学校鑑賞午後の部を除く)<br>満足度 82.7% |
| こどもへの芸術体験の提供とその満足度 | 体験（学校派遣）：12 コマ 150 人、創造体験（通年）：36 コマ延べ 600 人、その満足度 70%以上 | 体験(学校派遣)：8 コマ 171 人<br>創造(通年)：71 コマ延べ 720 人<br>その満足度 93.7% |

| | | |
|---|---|---|
| 事業を通じたシビックプライドの醸成または市民QOL等の向上に関するアンケート | 肯定的回答の合算割合 60%以上 | 肯定的回答の合算割合 78.6% |
| 貸館利用者の満足度 | 70%以上が対応に「満足」「ほぼ満足」と回答 | 施設、照明・空調、表示案内、職員の対応において「満足」「ほぼ満足」がほぼ 100% |

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

| | |
|---|---|
| 自己評価 | ① 地域連携団体数については、教育分野において目標 30 校に対し 31 校（市内幼小中高 32 校）を達成した。そのほかの分野でも目標 4 団体に対し観光 3・交通 1・福祉 2・地域施設 4 の計 10 団体と大幅に目標を上回り、地域との連携が広がりを見せた。<br>② 市内過疎地域アウトリーチは目標 15 件に対し 4 件にとどまった。一方、圏域市町村でのアウトリーチは目標 5 件に対し 7 件と目標を超えた。市内過疎地域への事業展開については、滞在アーティストと地域スケジュールが合わなかった一方で、圏域市町村の潜在的なニーズが想定よりあったことから、実施先のバランス調整を行う必要がある。<br>③ 市民文化団体の参画数は目標どおり 17 団体（芸術 12・芸能 5）を確保した。合計参加者数は目標 600 人に対し約 500 人と目標をやや下回ったものの、引き続き多くの市民文化団体が事業に参画した。<br>④ 通年活動市民コミュニティは目標どおり 3 団体（市民劇団 1 団体・ジュニア 2 団体）を維持し、合計参加者数は目標 50 人に対し 53 人と目標を達成した。<br>⑤ 全児童生徒への鑑賞体験については、2,745 人が鑑賞した。青森沖地震により津波注意報が発令にともなう公演の中止が生じたため、目標 3,000 人には若干届かなかったが、ほぼ全ての児童生徒に劇場での鑑賞機会を提供することができた。未鑑賞の 636 名には、舞台公演映像を提供した。満足度は 82.7%と目標 70%以上を大きく上回った。<br>⑥ こどもへの芸術体験については、学校派遣が目標 12 コマ・150 人に対し 8 コマ・171 人と、コマ数は未達成となったが参加者数は目標を達成した。創造体験（通年）は目標 36 コマ・延べ 600 人に対し 71 コマ・延べ 720 人と、いずれも目標を大幅に上回った。満足度は 93.7%と目標 70%以上を超える高い評価を得た。コマ数の増加に向けては滞在アーティストと学校スケジュール行事等のスケジュールをうまく調整ができなかったため、次年度に向けて改善する。<br>⑦ 来場者のシビックプライドの醸成・市民 QOL 向上に関するアンケート項目では、肯定的回答の合算割合が 78.6%となり、目標 60%以上を達成した。<br>⑧ 貸館利用者の満足度については、施設・照明空調・表示案内・職員の対応のいずれの項目においても「満足」「ほぼ満足」の回答がほぼ 100%に達し、目標を大きく上回る結果となった。<br><br>以上のとおり、一部指標において目標未達成の項目はあったものの、全体として概ね良好な成果を上げることができた。未達成項目については要因を分析し、次年度の事業計画に反映させていく。 |

## （2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

# 評価項目④：多様性とアクセシビリティ

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | ・(プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。<br>・(参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。<br>・(アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 | |
| | ・自由設定の観点（任意）（※2） | |

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| 評価指標（※3） | 目標（値）（※4） | 実績（値） |
|---|---|---|
| 受益者(観客及び参加者数の年齢構成)から多様性を判断 | 0～18 歳：3,000 名<br>19 歳～64 歳：500 名<br>65 歳以上：500 名 | アンケートの回答率から以下の通り<br>0～18 歳：2,982 名<br>19 歳～64 歳：494 名<br>65 歳以上：797 名 |
| 主たるアーティスト､講師*の居住地･性別・年齢構成<br>*直接謝金等を払うものを主な対象とする。 | 県内：7 名、県外：16 名<br>性別：男性 14 名 女性：9 名<br>年齢構成：2,30 代：16 名　4,50 代以上 7 名 | 県内：7 名、県外：16 名<br>性別：男性 14 名 女性：9 名<br>年齢構成：2,30 代：16 名　4,50 代以上 7 名 |
| U18 チケットのある演目又はワンコイン公演の実施 | 4 公演 | 4 公演 |
| 学校・福祉施設・過疎地域・圏域市町村等でのアウトリーチ数・参加者数 | 20 回 500 人 | 25 回 704 人 |
| 主催する公演等のイベント時の表周サイン表記の英語併記 | 3 公演 | 3 公演 |

（※3）･（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

| | |
|---|---|
| 自己評価 | ① 受益者の年齢構成については、0～18 歳が目標 3,000 名に対し 2,982 名とわずかに届かなかったものの、地震に伴う公演中止がなければ、目標を上回った。19 歳～64 歳は目標 500 名に対し、494 名とほぼ目標と同数であった。65 歳以上は目標 500 名に対し、797 名と目標を大きく上回った。子どもから高齢者まで幅広い年齢層への受益機会を提供できていると評価できる。<br>② 主たるアーティスト・講師の構成については、居住地（県内 7 名・県外 16 名）、性別（男性 14 名・女性 9 名）、年齢構成（20～30 代 16 名・40～50 代以上 7 名）のいずれも目標値と同様の結果となった。引き続き多様な人材の登用に努めるとともに、女性や地域内アーティストの比率向上についても今後の検討課題としたい。<br>③ U18 チケットのある演目またはワンコイン公演については、目標 4 公演に対し 4 公演を実施し、目標を達成した。<br>④ 学校・福祉施設・過疎地域・圏域市町村等でのアウトリーチについては、目標 20 回・500 人に対し 25 回・704 人を実施し、回数・参加者数ともに目標を上回った。地域に出向く形での事業展開により、来館が困難な多様な方々と舞台芸術を繋ぐ機会の拡充が図られた。<br>⑤ 主催公演等における表示サインの英語併記については、目標 3 公演に対し 3 公演で実施し、目標を達成した。訪日外国人を含む多様な来場者への情報提供環境の整備に寄与した。<br><br>以上のとおり、多様性とアクセシビリティの確保においては概ね目標を達成しており、特にアウトリーチ事業において顕著な成果が見られた。一方で、19 歳～64 歳層の参加促進や、アーティスト・講師における多様性のさらなる向上が今後の取り組み課題として挙げられる。 |

## （2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

# 評価項目⑤：自由設定（任意）

| | |
|---|---|
| 評価の観点 | ①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※2） |
| | ・<br>・<br>・ |

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| 評価指標（※3） | 目標（値）（※4） | 実績（値） |
|---|---|---|
| | | |

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

| | |
|---|---|
| 自己評価 | |

## （2）自己評価

## その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

（1）　これまで実施してきた公募型 AIR の次のステップとして、参加アーティストを対象とした非公募型・招聘型の AIR を実施している。公募型 AIR がリサーチや交流、WIP を中心とするのに対し、非公募型 AIR では、滞在制作を通じて新作やリ・クリエイションの創作および上演等を行っている。琉球舞踊グループの再訪時には、前回の滞在を記憶し、来訪を心待ちにしていた市民との再会があり、単発の公演や交流を超えて、人と人との関係が地域に根づきつつあることを実感する機会となった。また、当市と沖縄県多良間村との交流 30 周年を記念する事業として、次年度に組踊公演を実施することとなった。公募型 AIR を起点として、当初の想定を超える多様な事業展開につながっている。

（2）　震災から 15 年が経過し、岩手県沿岸部では、復興支援を契機とした舞台芸術の鑑賞機会が減少している。特に劇場のない市町村では、招聘型の催事等がほとんど行われていない状況にある。コンサートキャラバン等では、周辺市町村での開催について、前年度から継続して派遣を希望する声が寄せられている。市内で実施する場合よりも多くの参加者が集まることもあり、身近な場所で質の高い舞台芸術に触れられる機会が、地域にとって切実に求められていることを感じた。劇場に来ることが難しい人々のもとへ劇場の活動を届けることの意義を、改めて確認する機会となった。

（3）　中高生を対象とした演劇事業として継続実施してきた「劇場演劇部」について、今年度はオンラインと対面ワークショップを組み合わせた形態に変更して実施した。オンラインを併用したことで、通信制高等学校の生徒や、不登校を経験した生徒の参加もあり、普段の劇場事業では出会う機会の少ない生徒の参加につながった。また、多様な背景を持つ参加者が集う、社会包摂的な場づくりの機会ともなった。

（4）　コロナ禍以降、民俗芸能等の活動が停滞し、そのまま活動を再開できない団体も少なくない。今回の郷土芸能祭では、若い移住者が新たな芸能の担い手となり、活動を再開した団体を招聘することができた。地域の外から来た若い世代が、その土地の芸能を受け継ぐ姿は、民俗芸能が単に保存されるものではなく、新たな関わりの中で生き続けていくものであることを示していた。劇場での公演は、団体にとって新たな活動の契機ともなる。団体の選定においては、表現の質のみならず、その背景にある文脈への敬意を持つことが、地域文化の維持・継承において重要な視点であることを確認できた。

●メディア掲載

普-01 [創造] 劇場演劇部 放課後 ことばの実験｜事業紹介と募集記事(岩手日報/2025 年 7 月 27 日)
[創造] こども劇団みやこデイジー｜事業紹介と公演紹介記事(岩手日報/2026 年 1 月 24 日)

普-02 琉球舞踊と古典音楽の会 in 岩手｜アウトリーチ公演と一般鑑賞の取材(NHK/2025 年 12 月 18)
琉球舞踊と古典音楽の会 in 岩手｜一般鑑賞取材(河北新報/2025 年 12 月 23 日)
AIR 事業紹介(岩手日報/2026 年 2 月 28 日)

普-03 コンサートキャラバン｜アウトリーチ公演の取材(NHK/2025 年 8 月 4 日)

## （2）自己評価

# 評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。

※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （ア）多様な財源の確保<br>予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。 | （イ）広報・営業力<br>広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。 |
| 現状（※1） | 補助対象事業に限らず、企業協賛金や助成金を募るほか、共催団体の資金調達をサポート。 | 年齢構成ごとに広報計画を立案。市広報誌をはじめ、ラジオ番組や新世代に向けた動画制作、SNSでPR。 |
| 目標(値)（※2） | 共催者が助成金を取得し、実施経費を負担（共催者による助成金額獲得額50万円程度） | 年齢構成ごとに広報計画を立案。市広報誌をはじめ、ラジオ番組や新世代に向けた動画制作、SNSでPR。 |
| 実績(値) | 共催団体の資金調達を継続サポートし、527,000円の助成金を獲得した。 | 年齢構成ごとに広報計画を立案。事業のメインターゲット層を設定し、広報、ラジオCM、動画制作、SNSでのPRを実施した。 |
| 団体の自己評価 | A | B |

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （ウ）他館連携<br>他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。 | （エ）設置者<br>円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。 |
| 現状（※1） | 東京からの経由地である盛岡や近隣市町村で事業を展開。 | 設置者とは主要事業について良好な連携を図っており、相互協力体制がある。 |
| 目標(値)（※2） | 近隣市町村に劇場がないため、広域行政区(1 市 3 町 1 村)と連携しアウトリーチコンサートを 4 回実施。 | 関係性を継続しつつ、最新の文化行政の変化等について設置者と共有や協議を継続する。 |
| 実績(値) | 宮古市を除く広域行政区内 3 町 1 村と区外 1 町と連携しアウトリーチコンサート及びワークショップを 6 回実施 | 関係性を継続しつつ、最新の文化行政の変化等について設置者と共有。小中学校の鑑賞時に、バス代等を自治体で負担。 |
| 団体の自己評価 | A | A |

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （オ）芸術監督<br>芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。 | （カ）長期的経営<br>長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。 |
| 現状（※1） | 芸術監督 1 名、プロデューサー1 名を配置。 | 総合プロデューサー1 名(複数劇場運営経験者)館長(市幹部経験者)を配置。 |
| 目標(値)（※2） | 配置を継続する。 | 配置を継続する。 |
| 実績(値) | 配置を継続する。 | 配置を継続する。 |
| 団体の自己評価 | B | B |

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （キ）専門人材の確保<br>今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。 | （ク）職制の整理<br>芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。 |
| 現状（※1） | プロデューサーの専門性を踏まえ積極的にディレクター及び担当者の育成に努めている。 | 館長(管理)と芸術監督・プロデューサー(事業)ラインで職能ごとに役割分担をしている。 |
| 目標(値)（※2） | 継続して育成していく。 | 継続して業務にあたる。 |
| 実績(値) | 継続した育成に務めた。 | 継続して業務にあたる。 |
| 団体の自己評価 | B | B |

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （ケ）世代間バランス<br>年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている)。 | （コ）ジェンダーバランス<br>女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。 |
| 現状（※1） | 雇用割合としては若年層が多い。 | 職員の半数以上が女性であり、キャリアに応じリーダー職への登用を行なっている。 |
| 目標(値)（※2） | 人材育成の観点から継続して年齢バランスに考慮していく。 | 積極に登用を図るため、リーダー育成にあたる。 |
| 実績(値) | 人材育成の観点から継続して年齢バランスに考慮していく。 | 積極に登用を図るため、リーダー育成にあたる。 |
| 団体の自己評価 | B | B |

| 評価の観点 | （サ）ワークライフ・バランス<br>仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。 | （シ）コンプライアンス順守<br>情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。 |
|---|---|---|
| 現状（※1） | 産前産後休暇、育児休業･介護休業の規定を設けている。両立支援制度を整備している。 | 個人情報取扱規定を策定している。年１回の研修を実施予定。 |
| 目標(値)（※2） | 継続して推進する。 | 定期的な研修を実施する。 |
| 実績(値) | 継続して推進した。 | 継続して実施した。 |
| 団体の自己評価 | B | B |

| 評価の観点 | （ス）ハラスメント防止対策<br>職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。 | （セ）適正な契約事務<br>アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。 |
|---|---|---|
| 現状（※1） | 終了規則にハラスメント禁止の規定を設けるとともにハラスメント防止規定を新たに策定、周知している。 | 実施している。 |
| 目標(値)（※2） | 指針等を策定・周知し必要な研修を実施する。 | 継続して実施する。 |
| 実績(値) | 指針等を策定・周知した。 | 継続して実施した。 |
| 団体の自己評価 | B | B |

## （3）総評

※太枠内に記入してください。

### 団体の自己評価

本館では、東日本大震災以降、人口減少と少子高齢化が進行する岩手県沿岸広域圏において、地域の文化生態系の再構築を目的に事業を実施してきた。文化芸術を通じた地域社会の再生、年齢や立場を問わず誰もが関わることのできる場づくり、地域資源の持続的な活用を柱に、地域の実情に即した多層的な取り組みを展開している。今年度は、岩手県沿岸広域圏でのアウトリーチ公演と地域の音楽家育成を目的とした「コンサートキャラバン」、レジデンス事業「三陸 AIR/AIR」、郷土芸能の再評価と発信等を軸とした「コミュニティシアター」を中心に実施した。これらの事業は、対象や手法は異なりながらも、地域に根ざした文化の再編と、未来志向の文化拠点機能の形成に寄与したものと考える。

①　地域交流と人材育成「コンサートキャラバン」

2005 年に宮古市をはじめとする県内各地で行われた「コンサートキャラバン」は、故・小澤征爾氏、故ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ氏が「生の音楽」を届けるとともに、次世代の音楽家を育てたプロジェクトである。今年度は、両氏の宮古市初訪問から 20 周年にあたることから、事業内容を見直した。従来のように音楽を届けるだけでなく、地域の若い音楽家を育てる視点を取り入れ、県内で活動するジュニア・オーケストラのメンバーを対象に実施した。参加者は宮古市のほか、盛岡市・奥州市からも集まり、当時両氏とともに県内を巡った音楽家によるクリニックや、アウトリーチ先での合同演奏を行った。アウトリーチは 5 回中 4 回を市外で実施し、各会場からは継続実施を希望する声が寄せられた。圏域市町村での参加者数は 182 名に上り、劇場のない地域においても、質の高い音楽体験への需要が高いことが改めて示された。音楽を届けることと、次の担い手を育てることを同時に進める本事業は、広域圏における文化循環を生み出す取り組みとなった。

②　滞在制作を通じた交流と鑑賞の循環「三陸 AIR/AIR」

アーティスト・イン・レジデンス事業では、創作活動と地域住民との交流プログラムを継続的に実施している。今年度は、過去に滞在したアーティストを再招聘し、小学生・高校生を対象とした学校鑑賞事業に加え、アウトリーチやワークショップを通じた地域交流プログラムを展開した。以前の滞在活動を知る地域住民からは、再び会えたことへの喜びや、作品を改めて鑑賞できたことへの感動の声が多く聞かれた。これは、単発的な公演や交流では生まれにくい、継続的な関わりによる信頼と関係性の積み重ねによるものである。劇場が地域とアーティストをつなぎ、その関係を時間をかけて育てていく本館の役割を体現する成果であった。地域交流参加者数は 2,936 人に上り、うち約 700 人を対象とした満足度調査では 98.6%が満足と回答した。目標値 70%を大きく上回っており、事業の質の高さが定量的にも裏付けられた。滞在制作、鑑賞、交流が循環することで、地域における文化芸術への関心と参加の広がりにつながった。

③　郷土芸能の活動の再開と発信「コミュニティシアター」

地域住民の舞台芸術活動を通じたコミュニティ再生を目指す本事業では、今年度、コロナ禍で活動を休止していた郷土芸能団体が活動を再開し、招聘が実現した。地元の中高生に加え、移住をきっかけに地域行事へ参加するようになった若者が団体に加わり、ようやく活動を再開できたという経緯がある。この出来事は、郷土芸能が単に保存される対象ではなく、新たな担い手や関わり手との出会いを通じて、現在の地域社会の中で生き続けていくものであることを示していた。地域住民による文化継承活動の観点から見ても、意義深い事例であった。郷土芸能祭における参加団体数は市内 5 団体・市外 1 団体、来場者数は 379 名となり、前年度比 134%の増加となった。地域文化の継承と発信において、本事業が果たす役割の大きさが改めて示された。

●成果の総括と今後の課題

今年度の事業全体を通じて、来場者満足度は 97.9%、文化芸術への関心が高まったと回答した割合は 79.4%、地域・劇場への関心が高まったと回答した割合は 80.7%となり、いずれも目標値を大きく上回った。また、レジデンスアーティストとの地域交流および作品鑑賞を含む参加者数は 4,000 人を超え、地域住民の文化参加意欲の高まりが定量的にも確認された。地域連携団体数についても、教育分野 33 校、その他 10 団体と目標を上回る広がりを見せており、本館を核とした文化ネットワークは着実に拡充している。学校、地域団体、アーティスト、郷土芸能団体、周辺市町村との関わりが重なり合うことで、個別事業にとどまらない広域的な文化基盤の形成につながりつつある。一方で、震災復興支援の終了に伴い、周辺市町村における文化芸術催事のさらなる減少が懸念される。地域間格差が広がり、財政的な制約もあるなかで、本館がどこまで広域圏の中核的な役割を果たせるかが問われている。今後は、周辺市町村との連携方法を精査しながら、アウトリーチやレジデンスなど、地域に直接届く事業を継続する。限られた資源の中でも、劇場のない地域に文化芸術との接点をつくり続けることを、本館の重要な役割として取り組んでいきたい。

| 備考 |
| --- |
| |